このファイルは、平成２８年度図書館活性化プロジェクト「学び方を知る展示」第２回の展示期間中に配付されたものです。

図書の表紙画像について

ファイル中、本来図書の表紙画像を表示する場所に右のような但し書きがある部分があります。

これは学外へ配付・配信する分は著作権の画像使用の許可が取れなかったための措置です。

図書表紙画像

著作権の制限により、学外の方へ配布するものには、図書表紙画像を使用できません。ご了承ください。

学内の方で、完成版が必要な方は図書館カウンターへおいでください。

平成 29 年 2 月 23 日 北海道教育大学附属図書館札幌館

平成28年度図書館活性化プロジェクト･学び方を知る展示　第５回

展示期間:2017/1/4 ～2016/2/3

書庫探検のススメ！

人と妖怪と人形の歴史を辿る

学生の皆さんに学問することの魅力を伝える企画展示も５回目です!今回は文化人類学が専門の百瀬先生にご協力いただきました。

文化人類学では、生活の中の「もの」や「こと」を研究するので、実は身近なところの学問といえそうです。教育との関わりとしては、国際理解教育に活用できるでしょう。

また、今回も先生にたくさん本を選んでいただきましたが、紹介の形式がこれまでとちょっと違っていますので、お楽しみに!

第５回　百瀬　響　先生　　札幌校教授･言語･社会教育専攻

専門:文化人類学･民俗学, 日本史,文化財科学

文化人類学の面白さ

展示でも分けているように、他文化を研究する文化人類学と自文化を対象とする民俗学では、モノを見る視点が少しずつ異なります。今回の展示では、子どもの文化と身近な、人形や玩具、妖怪や怪談を中心にすえ、草創期の文化人類学や民俗学が対象としてきた宗教研究から、文化財／モノが、戦争を通じてどのように扱われてきたかまで、包括的に示しています。

文化人類学は、歴史や政治･社会･宗教的現象、文化財、噂話や怪談を含むサブカルチャーほか、広く文化的事象を研究対象とする学問です。またそれ故に、情報の海に溺れないためには、学説史ほか基礎知識の習得が求められます。本学の書庫には原典となる書物が所蔵されています。皆さんも古い学問の逍遥を楽しみつつ、現在の様々な事象を考えるヒントを探してみてはいかがでしょうか。

百瀬先生に聞きました！

図書館サポーターの３年　日比さんが百瀬先生の研究室へお邪魔し、インタビューをしてきてくれました。

日比：基礎学習開発専攻国語グループ3年の日比ことみと申します。本日はよろしくお願いします。さっそくですが、パンフレットを見て不思議に思ったのですが「人形」と文化人類学とはどのような関係があるのでしょうか。

百瀬先生：人形は、文化の一つとして世界中で親しまれていますよね。では、なぜこのように世界各地に人形はあるのだろうか…というところに目を付けるのが、他文化を研究する文化人類学の考え方です。このような考え方は、17世紀に西洋人が植民地を広げた際、現地人を支配するためにその土地に根差した文化や習慣を研究しはじめたことが始まりとなっています。

自文化を対象とする民俗学を日本で研究し始めたのは柳田國男であると言われています。

日比：柳田國男のことは、高校の頃に倫理の授業で少し学びました。あまり覚えていませんが…(笑)

百瀬先生：彼は、『遠野物語』に岩手県の遠野地方に伝わる妖怪の民話や伝説を多く記しました。この本に感化されて、民俗学を研究する人が増えたんですよ。見る者を虜にする魅力があったようですね。

日比：なるほど。今「妖怪」の話が出ましたが、先生が思う一番怖い妖怪は何ですか？

百瀬先生：うーん、「ねぶとり」ですかね。寝ているときに女性がどんどん太って部屋いっぱいに広がる妖怪です。もし、朝起きたときねぶとりになっていたら…と考えると、怖いですね(笑)話を人形に戻すと、女の子が3月3日に飾るひな人形がありますよね。もともとは呪物だったのですよ。現在は女の子のお祝いの行事として親しまれていますが、昔はどのような行事だったのか知っていますか？

日比：詳しくは知りませんが、ひな人形を川に流すという話を聞いたことがあります。

百瀬先生：そうです。昔は、女の子の健康を祈るために、人形を穢れや病気と一緒に川に流していたんです。川はあの世と繋がっていると考えられていましたからね。今はただのお祭りになっているようなことも、古くは宗教的な儀礼であったなど文化人類学の観点からみると新たな発見がありますよ。

日比：なるほど。現在行われている行事も、時代が変わるにつれて変化しているのですね。ところで、小中学校の教育に文化人類学を取り入れることはできますか？

百瀬先生：難しい質問ですね…(笑)文化人類学そのものを授業に取り入れるのは難しいですが、考え方を教育や学級経営に持ち込むことは可能だと思います。例えば、人のものの考え方を「良い」「悪い」と一方的に決めることはできない、という考え方です。イスラムの「ハラルフード」って聞いたことがありますか？

日比：いえ、初めて聞きました。どんなものですか？

百瀬先生：禁忌とされている食品をイスラム教徒が誤って食べてしまわないよう、作られたのが「ハラルフード」です。例えば豚肉を食べてはいけないというのは聞いたことがあるのではないでしょうか。インドネシアの味の素の製品が「ハラルフードと表示されているのに豚肉を使っている」と訴訟された事件がかつてありました。実際、製品に豚肉は含まれていないのですが、作る過程で使われた触媒に豚の成分が使われていたようです。日本人から見ると驚く内容ですが、イスラム教徒からすれば「豚肉と関わるものを知らずに食べさせられていた」ですから、このような事態となったようです。しかし、イスラム教徒の「豚肉は絶対食べてはいけない」という考えが「良い」か「悪い」かは、私たちが一方的に決めることはできません。

↑ハラルのマーク

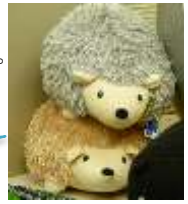
日比：難しい問題ですね。全員が平等に「良い」と決められることは無いのかもしれませんね。

百瀬先生：小学生の女の子がよく行う恋のおまじないなども文化人類学と繋がりますね。古くから行われてきた呪術が変化した形といえます。こういうの、皆やっていますよね(笑)　他にも、学校の怪談や昔話も、文化人類学と関連しているといえます。こんな話をしてみるのも面白いのではないでしょうか。

日比：おまじない、私も昔やっていました(笑)　楽しく学べそうですね。ところで、展示のタイトルに「書庫探検のススメ」とありますが、先生は普段どのように資料を探しますか？

百瀬先生：インターネットで検索して本を見つけることも便利で良いですが、実際に書庫に入って気になる表紙やタイトルの本をどんどん手に取って探すのが好きですね。「人形」についての資料がほしい時、インターネットでは「人形」としか検索できませんが、「玩具」など別の表記で「人形」について書かれていることもあるので、書庫に行くと検索にかからない本も多く見つけることができます。気になったものは片っ端から読んでいくので、一本の論文を書くために本棚2つ分以上は本を読みますね。札幌校の図書館１階の書庫にも、素敵な本がたくさん眠っていますよ。

日比：普段あまり書庫は使わないので、今度行ってみようと思います。本日は、貴重なお話を聞かせて頂き、ありがとうございました。



百瀬先生の研究室にいる銀閣(上)と金閣(下)です！

今回は系統樹を用いて、本を紹介します!

左から右へ順番に見ていくと理解が深まっていくように、本が並んでいます。同じ色・同じ高さの本は特に関連度が高くなっています。

文化人類学・民俗学の誕生――カミから妖怪へ

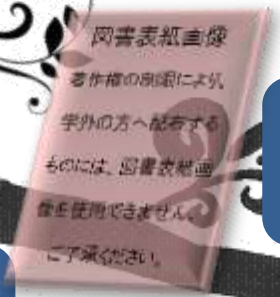
民俗学

①遠野物語 / 柳田国男著 -- 東京 : 郷土研究社 , 1935.7

日本民俗学の創始者である柳田国男は、ハイネの著作に影響を受けたと言われ、古い神々の妖怪への転身が、初期柳田民俗学の重要テーマの一つでした。後にこのテーマは、彼が生きた当時の人々の生活の中から、(噂話・怪談を含む)近代世相を採集・記録する研究へとつながっていきます。

②山深き遠野の里の物語せよ / 菊池照雄著 -- 東京 : 梟社 , 1989.6

③明治大正史 : 世相篇 / 柳田国男著 -- 東京 : 平凡社 , 1967.12



文化人類学

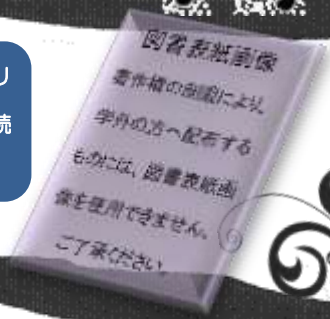
⑧流刑の神々 ; 精霊物語 / ハインリヒ・ハイネ著 -- 東京 : 岩波書店 , 1980.2

⑨原始文化 : 神話・哲学・宗教・言語・芸能・風習に関する研究 / E.B.タイラー [著] ; 比屋根安定訳 -- 東京 : 誠信書房 , 1962.11

⑩ゲルマン神話 : ニーベルンゲンからリルケまで… / 吉村貞司著 -- 東京 : 読売新聞社 , 1972.5

人形から見る戦争と学問・モノ

⑲ホピ族の精霊カチーナ人形 / 鶴本正三編 --東京 : 学研パブリッシング , 2013.5



文化財学(博物館学)

⑰フェティシュ諸神の崇拝 / シャルル・ド・ブロス [著] ; 杉本隆司訳 --東京 : 法政大学出版局 , 2008.11

⑱フェティシズム / ポール=ロラン・アスン著 ; 西尾彰泰, 守谷てるみ訳 --東京 : 白水社 , 2008.12

偶像崇拝研究においては、かつて人形が、人間のみではなく、神々を模した「呪物」である点が、強調されています。偶像から子どもの玩具まで、人形の様々な顔を見ることができます。

⑳日本の子供達 / 宮本常一著 --東京 : 岩崎書店 , 1957.8

㉑日本玩具史(前・後) / 有坂与太郎著 --東京 : 建設社 , 1931.9-1932.1

㉒日本人形玩具辞典 / 斎藤良輔編 --東京 : 東京堂出版 , 1997.9

④明治期怪異妖怪記事資料集成 / 湯本豪一編 -- 東京：国書刊行会，2009.1

p.970　学校の怪談「お化け騒動」

⑤大正期怪異妖怪記事資料集成(上・下) / 湯本豪一編　-- 東京：国書刊行会，2014

進化論提唱を背景に、初期の文化人類学では、宗教は科学万能社会へ移行するまでの、過渡期の代替物とみなされました。しかし、宗教的現象――カミや妖怪――は、現代でも存在し続け、文化人類学研究の大きなテーマの一つとなっています。

⑥消えるヒッチハイカー：都市の想像力のアメリカ / ジャン・ハロルド・ブルンヴァン著；大月隆寛［ほか］訳　-- 東京：新宿書房，

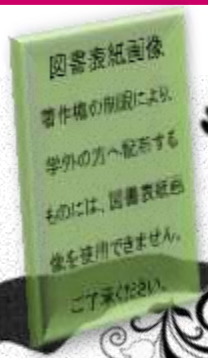
⑪金枝篇(1～5) / フレイザー著；永橋卓介訳　-- 東京：岩波書店，1966.8-1967.12

⑫図説金枝篇 / サー・ジェームズ・ジョージ・フレーザー著；サビーヌ・マコーマック編集；内田昭一郎，吉岡晶子訳　-- 東京：東京書籍，1994.10

⑬宗教生活の原初形態(上・下) / デュルケム著；古野清人譯　-- 東京：岩波書店，1941-1942

pp.424-426「人形の怪異」

⑦日本怪異妖怪大事典 / 小松和彦［ほか］編集委員　-- 東京：東京堂出版，2013.7



⑭呪術・科学・宗教・神話 / ブロニスラフ・マリノフスキー著；宮武公夫，高橋巌根訳　-- 京都：人文書院，1997.7

⑯古代社会 / L. H. モルガン著；青山道夫訳　-- 東京：岩波書店，1958.7-1961.9

学問もまた、社会／当時の世相と切り離された存在ではありません。第二次世界大戦から現代における文化人類学･民俗学の思想背景から、モノや技術がどのように政治や戦争に利用されてきたかを、みることができます。

⑮シャマニズム：アルタイ系諸民族の世界像(1・2) / ウノ・ハルヴァ［著］；田中克彦訳　-- 東京：平凡社，2013

㉝技術史をみる眼：自動車から京友禅へ / 奥村正二著　-- 東京：技術と人間，1977.5

㉓民具問答集 / アチックミューゼアム編著　--東京：丸善三田出張所（發賣），1937.6

㉔おもちゃ戦後文化史：時代の証言者たち / 中江克己著　-- 東京：泰流社，1983.9

㉕青い目の人形：日米友情の人形交流の記録：写真資料集 / 武田英子編著　-- 京都：山口書店，1985.8

㉖ドイツ民俗学とナチズム / 河野眞著　-- 東京：創土社，2005.8

㉗人類学者と少女 / A.シュルマン著；村上光彦訳　-- 東京：岩波書店，1981.2

㉘民俗学の政治性：アメリカ民俗学 100 年目の省察から / 岩竹美加子編訳　-- 東京：未来社，1996.8

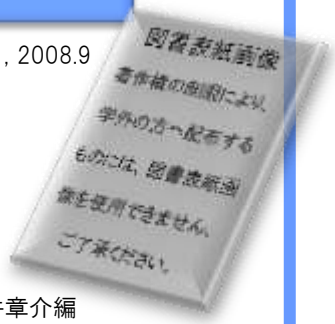
㉙公的記憶をめぐる博物館の政治性：アメリカ・ハートランドの民族誌 / 田川泉著　-- 東京：明石書店，2005.2

㉚ミュージアムの政治学：カナダの多文化主義と国民文化 / 溝上智恵子著　-- 秦野：東海大学出版会，2003.12

㉛植民地人類学の展望 / 中生勝美編　-- 東京：風響社，2000.8

㉜博物館という装置：帝国・植民地・アイデンティティ / 石井正己編　-- 東京：勉誠出版，2016.3

百瀬先生の著作



①文明開化 : 失われた風俗 / 百瀬響著 -- 東京 : 吉川弘文館 , 2008.9

②中学･高校教育と文化人類学 / 青柳真智子編著 -- 東京 : 大明堂 , 1996.2

百瀬先生はpp.41～78「社会科教科書のアイヌに関する記述」をスチュアート ヘンリと共同執筆されています。

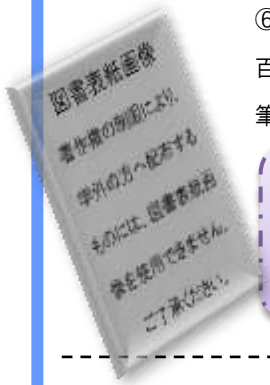
③近代化する日本:日本の対外関係 7 / 荒野泰典, 石井正敏, 村井章介編 -- 東京 : 吉川弘文館 , 2012.4

百瀬先生はpp.315～331「北海道開拓と『旧土人保護法』」を執筆されていま

④ロシア極東に生きる高齢者たち : 年金生活者のネットワーク / 百瀬響［著］ -- 東京 : 東洋書店 , 2002.10

⑤老いの人類学 / 青柳まちこ編 -- 京都 : 世界思想社 , 2004.3

百瀬先生はpp.159～178 「老後をどう生きぬくか」を執筆されています。



⑥植民地人類学の展望 / 中生勝美編 -- 東京 : 風響社 , 2000.8

百瀬先生はpp.71～121「北進と民族学―河野広道の軌跡を通じて」を執筆されています。

今回の展示で使用した一部の画像は
「国立国会図書館デジタルコレクション」より転載しています。
URL: http://dl.ndl.go.jp/

百瀬先生、ご協力ありがとうございました！

今年度の「学び方を知る展示」は今回で最終回となります。この企画が少しでも皆さんの学習や研究の手掛かりとなっていれば、嬉しいです。1 年間ありがとうございました！

編集･発行: 北海道教育大学附属図書館札幌館 2017/1/31